

えんの舞
in 柿傳
第十一回

地唄「鐘ヶ岬」 舞 神崎えん
令和六年四月二十日(土) 十四時の会 / 十六時の会



第十一回 えんの舞 in 柿傳

早いもので、新宿・柿傳の茶室にて、神崎えんさんに舞って頂く鑑賞会も十一回目を迎える事となりました。これも偏に皆様のお陰とっており、心より厚くお礼申し上げます。

さて今回は、「鐘ヶ岬」を皆様にご覧いただきます。「鐘ヶ岬」は、地唄の道成寺物の代表曲ですが、神崎流では所謂、恋の物語としております。歌詞は本歌としている京鹿子娘道成寺から「鐘に恨みは」の鐘づくしに始まり「真如の月を眺め明かさん」までは清浄心を、次の「言わず語らぬ」から艶ごとを描き、廓づくしの手鞠唄になぞらえ現在進行形の恋の話を綴り「思い染めたか縁じゃえ」と終わります。

衣擦れの音が聞こえる和室の至近の空間で、地唄舞の世界観を味わって頂ければと存じます。

舞と合わせ、渡辺 保 先生（日本藝術院 会員）による解説もごさいます。

下記の通り、ご案内申し上げますので、ご知友お誘い合わせの上、卯月のひと時をごゆるりとお過ごし下さいませ。

新宿 京懐石 柿傳 安田真一（神崎流地唄舞研究会 理事）

- ・日時 令和6年4月20日(土) 14時の会 / 16時の会
※ 受付の柿傳6階「古今サロン」に開会15分前までにご参集ください。
- ・会場 新宿 京懐石 柿傳 (かきでん)
東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビル TEL 03-3352-5121
JR新宿駅中央東口改札・新宿東口駅ビル「ルミネエスト」すぐ隣
- ・会費 柿傳でのお食事の有無で会費が異なりますので、ご希望をお聞かせください。
15,000円(税込) お食事付き(松花堂弁当・煮物椀付): 柿傳8階椅子席
10,000円(税込) お食事無し
※ 会費は当日、受付にて申し受けます。
- ・次第 9階茶室「残月」にて
■ 渡辺 保 氏 (日本藝術院 会員・演劇評論家) による解説
■ 地唄「鐘ヶ岬」 舞・神崎えん
■ 後談義 神崎えん × 渡辺 保氏



神崎えん (地唄舞 神崎流 四世家元)

神崎流地唄舞は昭和10年神崎恵舞が創設。

昭和53年より毎年「えんの会」を開催。平成11年、日本舞踏批評家協会新人賞を受賞。平成23年にはパリ公演。平成26年より年間4回、「地唄舞研究会」を鹿島建設、渡辺保氏の協力で主催。同別会としてワークショップを随時開催。現在に至る。平成29年、一般社団法人「神崎流」を設立し、代表に就任。東京の地唄舞神崎流の啓蒙と発展継承のために尽力している。



地唄舞とは

日本の古典舞踊には「舞」と「踊」があります。「舞」は「能」の動きにも見られるように、回転、旋回する動きを指します。「踊」は解放的に跳躍する動きを呼びます。この「舞」を座敷で、三味線音楽である地唄を伴奏として舞うのが「地唄舞」の初期のかたちでした。神崎流は、初代が大阪から東京に移り創流、その後四代目の神崎えんまで引き継がれ、ただ一つ東京で育まれて来た地唄舞の流儀です。

第十一回 えんの舞 in 柿傳 お申込用紙

FAX 03-3350-5111

下記をご記入の上、切り取らずに上記番号までFAXをお送りいただくか、お電話【03-3352-5121】または、E-mail【mail@kakiden.com】にて、柿傳までご連絡を頂ければ幸いです。皆様のお申し込みをお待ちしております。

ご芳名	
お電話番号	
メールアドレス	
ご希望の会	14時の会 / 16時の会
お食事の有無	お食事付き (時 名様) ・ お食事無し

ご希望の会・お食事の有無は、いずれかに○をお付け下さい。